

# 研 修 部 だ よ り

## テーマ別研修「視覚障害者の生活」

10月4日(水)の講師は中尾謙一先生と葉 華先生です。事前アンケートから抽出した全12問にお答えいただきました。



### Q1 「見える」とは？

①明暗が分かる、②色がわかる、③離れているところが分かる ということ。光覚はとても重要で、火花が分かったり、車窓から光が流れることで電車が進んでいることも分かたりします。

### Q2 自分で聞きたい音を聞き取るために何を注意していますか？

一人の声をしっかり聞くこと、複数の音から必要な音を聞くことはどちらも大事です。慣れていって欲しいです。周りは静かにしようと気を付けすぎなくて良いと思います。

### Q3 わかりやすい言葉かけ

「もう少し右」ではなく「あと30cm右」のように、具体的な数字で示してくれると分かりやすいです。ラジオの実況中継のようなイメージです。

### Q4 模型→実物 or 実物→模型のどちらの順の方が分かりやすいですか？

模型でイメージしてから実物を触る方が分かりやすいです。

### Q5 重複生徒に対して、学校生活の中でこれだけは身に付けさせてやったほうが良いことは？

つけさせたい力は多岐にわたるので、これはすごく難しい質問ですね…

### Q6 宇宙や星などとてつもなく大きな物や、原子などとてつもなく小さい物など、触れないものの大きさについてどのように捉えていますか？

学生の頃、ラジオを用いて、星が流れたら音が変わることで流星群を知ったり、太陽の欠けた形の立体コピーを触って日食を知ったりした経験があります。実感するということが大事だと思います。

菌がバスケットボールの大きさだったら、ウイルスはゴマの大きさというように、身近なものに例えることも有効だと思います。

### Q7 声色や強弱、抑揚などでもすれ違う方の年齢などプロフィールが分かるのでしょうか？

声の抑揚には注意しています。その人が元気かどうかは分かります。よく「絶対音感ありますか？」と尋ねられますが、ありません(笑)

### Q8 日常生活の中での困り感

電車でドアの近くに立っている人にぶつかってしまうことがあります。あとはアイコンタクトできないことですね。掃除へのモチベーションも上がりません。少し余分にやるので、お風呂の洗剤が無くなるのは早いです(笑)写真や車の運転はできないので趣味の幅も狭いです。動作のマネができないので、学生時代はボールの投げ方が分かりませんでした。タッチパネル操作のものが多くなって生活しにくくなりました。

### Q9 晴眼者と働く上で、もっと〇〇した方が良い点、〇〇はやめてほしいなと思う点がありますか？

席を外すときは一言かけて欲しいです。大勢いる空間で話しかけるときは、名前を呼んでから話しかけてください。“全盲”も幅広いので、“全盲の人”でくらず、一人の人として接してくれるとうれしいです。

### Q10 通院されるとき苦労することは？

一人で病院に行くと、問診票が書けません。頼めば代わりに書いてくれますが、個人情報なので気を遣います。受付の位置も分かりにくいです。点字ブロックがあっても、どこに向かっているのか分からないときがあります。

### Q11 時間を意識する方法

明暗が分からないと朝か夜か分かりにくいですが、鳥のさえずりや車の音などで判断できることもあります。

### Q12 「色」のイメージ

色は見えませんが、「赤はりんごの色」というような知識はあります。会話の中でも必要になることがあるので。全盲者にも気にせず色の話をしてくださいね。